



2021年8月30日

日本鉄道労働組合連合会

JRグループ労組連絡会「第29回総会」

加盟単組・労使が一丸となって難局を克服する

JRグループ労組連絡会は8月27日、京都市「ホテルグランヴィア京都」にて、「加盟単組・労使が一丸となってこの難局を乗り越え、安全・安心で将来に希望が持てるJRグループを創造しよう！」をメインスローガンに、第29回総会を開催した。なお、現下の新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況を踏まえ、分科会別討議中止、リモート出席併用とし、感染防止対策を徹底したうえで開催した。

冒頭、幹事会を代表して八木大星代表幹事（JR西日本連合・NESCO労組執行委員長）が挨拶に立ち、新型コロナウイルス感染症拡大に端を発したこの間の取り組みを振り返るとともに、安全の確立や2022年春季生活闘争に関して所信を述べた。そして、コロナ禍で労働組合の存在が再認識されたことを踏まえ、「加盟全単組が『JR連合ビジョン』を実践し、不安を抱える組合員に寄り添い、これまで築き上げてきた健全な労使関係を基礎に一丸となって、この難局を乗り越えよう」と訴えた。また、来賓では、JR連合の荻山市朗会長より連帯と激励の挨拶を受けた。

議事では、幹事会より2020年度活動報告と2021年度活動方針案を提起。質疑では、コロナ禍で甚大な影響を受けた物販、ホテル、一般（旅行）、陸運の分科会より現下の経営状況や労使の取り組み、現場で働く組合員の悲痛な思い、公的支援制度継続を求める政策政治活動等のさらなる展開を切望する発言があった。また、本年6月に加盟した交運共済労組からも、こくみん共済coopへの契約移転に伴う協力依頼と雇用不安に対する発言があった。事務局の答弁後、全議案が満場一致で採択された。

幹事会については、中村真光幹事（JR西日本連合・ジェイアール西日本メンテック労組）、宇治橋慶也幹事（JR四国連合・JR四国ホテルズユニオン）、淵上潤幹事（JR九州連合・JR九州サービスサポート労組）の3名が退任し、新たに奥村敬弥氏（JR東海連合・東海交通事業労組執行委員長）を代表幹事に選出するとともに、岩田久氏（JR西日本連合・ジェイアール西日本メンテック労組）、三宅大介氏（JR四国連合・JR四国ホテルズユニオン）、村中隆一氏（JR九州連合・JR九州システムソリューションズ労組）の3名を幹事に選出し、新体制を構築した。



最後に、奥村代表幹事の「団結がんばろう」によりJRグループ労組連絡会の「横のつながり」を強化するとともに、この難局を加盟92単組・3万人の仲間が一丸となって克服していく決意を固め合った。